

## 柳瀬川・空堀川流域連絡会（第6期）(全体会)

日 時:平成23年5月13日(金) 14時00分～17時00分

場 所:北多摩北部建設事務所 地下1階 A. B. C 会議室

### 配布資料:

- ① 次第  
(資料1)
- ② 座席表  
(資料2)
- ③ 委員名簿  
(資料3)
- ④ 設置要綱  
(資料4)
- ⑤ 運営要領  
(資料5)
- ⑥ 柳瀬川・空堀川流域連絡会について  
(資料6)
- ⑦ 第5期柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動報告  
(資料7)
- ⑧ 散策マップ・東京の河川事業・北多摩北部建設事務所所管内図
- ⑨ 空堀川夏の清掃活動(第13回クリーンアップ)
- ⑩ 環境フェア清瀬

### 議 題:

- ① 設置要綱・運営要領について
- ② 座長・副座長の選出
- ③ 柳瀬川・空堀川流域連絡会について
- ④ 第5期柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動報告
- ⑤ 委員自己紹介
- ⑥ 進め方について
- ⑦ 今後の予定

### 【議事要旨】

(事務局) それでは、定刻になりましたので、第6期の全体会、開催させて頂きたいと思います。まだ委員の方、見えられてないんですけども、予定通り始めさせて頂きたいと思います。私、本日の司会進行役を努めます、当事務所の工事二課の〇〇といたします。よろしくお願いたします。それでは全体会、第6期の1回目という事で、当事務所の所長の方からご挨拶がありますので、よろしくお願いたします。

(所長) みなさん、こんにちは。北多摩北部建設事務所の〇〇でございます。本日は、お忙しい中、柳瀬川・空堀川流域連絡会にご出席頂き、ありがとうございます。また日頃より、東京都の河川行政にご理解、ご協力頂き、感謝申し上げます。本日は第6期の柳瀬川・空堀川流域連絡会の第1回目の開催という事で、公募による都民委員と団体委員の方が24名、行政委員が12名の計36名、このうち本日は24名の出席を予定しております。ご存知の方もいらっしゃるでしょうけど、この流域連絡会は平成9年に河川法の改正により

まして流域の住民・自治体、河川管理者が河川に関する情報の交換、意見の交換を行い、協働して地域に親しまれる川作りを進めていくというのが目的でございます。本流域連絡会は、平成11年の11月に発足しまして、約12年間皆様方と共に活動を続けておりますけれども、分科会も含めると60回にも及ぶと聞いております。活動に参加された皆様方にはこの場お借りしてお礼申し上げます。前回の第5期ではJR湧水の利活用、御成橋周辺整備計画、樹木の維持管理部分について現地調査、意見交換を行いまして、貴重なご意見、ご提案をいただいたところでございます。第6期の柳瀬川・空堀川流域連絡会におきましても、自由で活発な情報の交換や意見交換を通しまして、地域の皆様方に愛され、親しまれる柳瀬川・空堀川の実現に向けて皆様の様々なご意見をご提案いただければと思いますので、よろしく申し上げます。ところで、話は変わりますが、近年の降雨状況について、少々お話させていただきますと、近年1時間に50mmを超える局地的な集中豪雨が日本各地で発生しております。東京都でも昨年の7月に河川の氾濫や床下・床上浸水、道路の冠水など重大な被害をもたらしました。幸いな事に、この柳瀬川・空堀川流域におきましては護岸の整備が促進されていて河川からの被害はありませんでした。しかしながら、1時間に50mmを超える局地的な集中豪雨、これが柳瀬川・空堀川流域でも多発しておりまして、今後いっそうの水理対策の促進が求められているところであります。このような状況の中、当事務所におきましても、大雨による洪水から地域の皆様の生命、財産を守るために河川改修工事を進めており、治水安全の向上に努めているところでございます。今後共、河川改修の促進に務めてまいりますので、皆様方の更なるご理解、ご協力を頂きたいと思っております。簡単ではありますが、第6期柳瀬川・空堀川流域連絡会の開催にあたりまして挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

(事務局) それでは次第3、委員紹介に移りたいと思います。委員紹介につきましては後ほど自己紹介の場を設けておりますので、私の方から委員の方のお名前をお呼びしますので、その場でちょっと会釈していただければ、新しい方もいらっしゃいますので、お顔と名前が一致すると思います。それでは、私の方から清瀬市さんからご紹介させていただきます。

#### 委員紹介

(事務局) 以上、第6期は行政委員含めまして36名で進めたいと思います。最初なので事務局の方、紹介をしたいと思います。私は、先程お話した工事二課の〇〇といたします。よろしく申し上げます。工事二課の設計係長の〇〇と申します。今期もよろしく申し上げます。維持担当係長の〇〇です。よろしく願いいたします。同じく、工務係の〇〇でございます。よろしく申し上げます。それと、議事録の作成と資料作成という事で、前はセルコさんをお願いしていたんですけども、今回新しく環境モニタリング研究所の二名が一年間お手伝いする事になりましたので、ひとつよろしく願いいたします。つづきまして、お手元に配布してあります資料の確認をしたいと思っております。まず開いて頂きますと、資料の一覧というのが入っておりますので、それを見ながら確認をして頂きたいと思っております。まず資料1として、次第、このペーパーがA4で一枚でございます。それから資料2で座席表、これもA4のペーパーで一枚。ちょっとこれ、訂正させていただきますんですけども、武蔵村山市さんの行政委員、〇〇さんの下が〇〇委員になっておりますけれども、〇〇委員の間違いですので、大変申し訳ありませんが、訂正願います。続きまして資料の3、委員名簿。今回の36名の方の委員の名簿でございます。続きまして資料の4、これは当流域連絡会の設置要綱でございます。次に行きます。資料5、これが運営要領。それから資料6として、柳瀬川・空堀川流域連絡会について、このペーパーがございます。それと資料7。カラーのA3の折り込みである物なんですけれども、前回の活動報告。これが資料7でございます。それとあと、資料ナンバーは打っておりませんが、空堀川夏の清掃活動。それと東京の河川事業。折込のものが一部。それから管内図。これは古くて申し訳ないんですけども、新しい方もおられるので管内図も一部つけてあります。それと柳瀬川、空堀川の散策マップ。これもつけてあります。それと今日当日、〇〇委員の方から環境フ

エア清瀬ということで、このペーパーについても本日、お配りしております。清瀬市の方はみなさん知っているという事で清瀬市さんには配っておりませんが、その他の方にはみなさん、配っておりますのでよろしくお願ひします。以上で配布資料の方は確認したんですけれども、足りないあるいは重複しているという方、ありますでしょうか。それでは、次第の 4、設置要綱に移りたいと思います。私の方で、設置要綱を読ませて頂きます。その後で何かご意見等があれば、お伺ひしたいと思います。

#### 第 6 期 柳瀬川・空堀川流域連絡会設置要綱(読み上げ)

(事務局) これが、流域連絡会の第 6 期の要綱の内容でございます。基本的には第 5 期と変えておりません。これについて、皆さんご意見等ありましたら、お伺ひしたいと思います。何かございますでしょうか。要綱なので、そぐわないものもあれば、当連絡会の中で随時変えていく事も出来ますので、皆さん何もなければ、第 6 期の要綱、第 5 期と同じですけれども、これによりたいと思いますけれどもいかがでしょうか。では、要項については今回ご説明した内容でスタートしたいと思います。続きまして、資料 5、運営要領のほうのご説明にいきたいと思います。これも同じように私の方で読ませて頂きます。

#### 第 6 期 柳瀬川・空堀川流域連絡会運営要領(読み上げ)

(事務局) 以上が運営要領の内容でございます。これにつきましても、前回第 5 期の内容と同様でございます。運営要領について、何かご意見等があればお伺ひしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、運営要領につきましても、前回同様の内容で第 6 期をスタートしたいと思います。それでは、次第に従いまして座長の選出に移りたいと思います。先程の設置要綱の第 4 にもありますように、連絡会は委員の互選又は推薦により座長を置くということになっております。皆さんの中で我こそやってみようという方がいらっしゃいましたら、推薦でも構わないので誰かいらっしゃいませんか。

(都民委員) ○○さんがいいと思うんですが、

(事務局) ○○さん、いかがですか。

(都民委員) 今まで二課長が座長をやってたんで、それに従った方がいいのかと思います。

(事務局) そういう意見がございますけれども、どうですか。

(都民委員) ○○さんの意見に賛成です。

(都民委員) 二課長に是非という意見もありましたけれども。

(事務局) それでは、5 期に引き続いて座長は○○委員にお願いしたいと思います。○○課長よろしいでしょうか。

(工事二課長) はい。

(事務局) それでは、座長は○○課長ということで、第 6 期を進めたいと思います。よろしくお願ひいたします。○○委員、座長になりましたので、前の方に移動をお願いします。座長が決まりましたので、これからの進行につきましては、座長に一任したいと思います。○○課長、よろしくお願ひします。

(座長) ただいま座長に推薦されました○○でございます。それでは次第に沿いまして、一言挨拶ということなので、挨拶させていただきます。北北建はこの柳瀬川・空堀川流域の清瀬市さん、東村山市さん或いは東大和市さんと武蔵村山市さん 4 市と、この事務所があります立川でございますが、これらの市の道路とかを作ったり、維持管理をしているところです。そのうち私のいる工事二課といいますのは、その中でも河川を整備したり管理したりするところでございます。そういう意味で流域の市の方にも委員として来て頂き、色々協力して維持管理等しているわけです。我々が今までやってきた河川整備につきましても、皆さんの安全とか安心とかを守るために河川改修して広げたり、そういうことをやってきております。そういう意味では一定の成果が出たということもあって信頼も段々得られつつありますけれども、今年の雨などは、やはり下流のほうでは非常に危ない、不安だという方もいらっしゃいました。もう一つは、昨日、広島では河川で溺れた小学校六年生の方が 3 人亡

くなられたという事故もあり、そういうことがないように、そういう管理も我々がしなくてはならないという事もありまして、河川管理者とかそういう意味ではいろんな方面にやっていかなければならないものだと思っております。そういう中でも先ほど所長の方からもありましたように、河川法が改正されまして、治水あるいは利水その中に環境というものも重要であると考えていく事が河川管理者としての使命と考えております。我々も環境という面では疎い面もございますので、毎日河川に携わっている、見ていらしたり、守って頂いている皆さん方の意見も踏まえまして、この流域連絡会でいい柳瀬川・空掘川が出来ればいいかなと思っております。お互いに意見を尊重しながら、是非いい川を作っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。それでは、座らせて進めさせていただきます。

(事務局) ここで〇〇所長所用のため退席させていただきます。

(所長) 皆さんよろしく願います。失礼します。(退席)

(座長) 引き続きまして、要綱の中に副座長を委員の互選によりという事で副座長を決めなければなりませんけど、どなたか立候補あるいは推薦をして頂けませんか。

(都民委員) 〇〇さん。

(座長) 〇〇さんという声がかかりましたけれども、〇〇さん、いかがですか。

(都民委員) わかりました。どうぞよろしく。

(団体委員) すいません、ちょっといいですか。副座長は1名ですか。

(座長) 特に何名という事ではないですけど、今の所1名と考えていたんですけど。

(団体委員) そうですか。2名でもしよければ、もう一人推薦させて下さい。

(座長) 事務局どうですか。

(事務局) 特に何名置くという決まりはないです。その中でみなさんで置いた方がいいんじゃないかという話になれば、それはいいと思います。そういう意見という事で、みなさんよろしければ、2名置きたいと思います。

(団体委員) 清瀬の〇〇さんです。前期、お二方は分科会も担当していましたので。〇〇さん、〇〇さんのお二方にお願いしたらと思うんですが。

(座長) そういう推薦のお言葉がございますが、〇〇さんいかがですか。

(都民委員) すみません。辞退致します。

(座長) そうですか。そういう意味では〇〇さんがご辞退という事で、副座長は〇〇さん、よろしく願います。

(都民委員) 先ほど、事務局の方から自己紹介をするという話があったんですけども。

(座長) はい。この後に予定しています。

(都民委員) 新しくきた者ですが、座長、副座長は自己紹介後に決めた方がよかったです。

(座長) 次回からそのようにさせていただきます。申し訳ございません。

(事務局) それでは次第、第7番目の柳瀬川・空掘川流域連絡会の経緯について事務局からご説明させていただきます。お手元の資料6をご覧くださいなのですが、簡単にA4の一枚でまとめております。概要につきましては、先ほどの話にもありましたように平成9年河川法が改正されまして、流域の皆様、あるいは流域自治体、あるいは当事務所の河川管理課これがきめ細かく情報交換しながら、協働、連携して地域に親しめる川作りをしていくなさいと平成9年の河川法の改正で決まりました。それを受けて平成10年3月、今後の河川事業の円滑な推進を図ることを目的として、流域連絡会の設置が決まりました。当柳瀬川・空掘川流域連絡会におきましては平成11年3月、もう十数年前になるのですが、委員を公募して、同年の11月発足しました。その後、様々な意見、情報交換をしてきたのですが、第2期以降に全体会の他に分科会を設置して、分科会ごとに個別の課題を持ちまして活動してきました。概要につきましては、簡単ではありますが、このような内容になっております。ほぼ十数年経っているということになります。先ほど所長のご挨拶にもありましたけれども、分科会の活動については六十数回、年にしますと10回ぐらい活動しております。2の活動状況につきましては、先ほどお話しした通り、3月に委員募集をしまして、平成11年11月第1期スタート、14年に第2期、16年に第3期、18年に第4期、

そして21年に第5期ということで21年度につきましては、今年の2月に終了して、今回第6期ということで、ここに皆さんにお集まりいただいております。分科会の活動ですが、分科会として活動し出したのは平成16年1月これは水量確保分科会として発足しております。平成19年につきましては水循環と河川環境の両分科会、これが発足して活動を続けてまいりました。分科会としては、第5期で活動していたのは、水循環と河川環境の二つの分科会でございます。第6期の設置まで、平成23年の1月15日市報に掲載して委員の募集を行いました。同年の2月8日に締切りまして、作文を見させていただいて、3月4日委員を決定しております。それで、本日5月13日第1回連絡会ということで皆さんにお集まり頂きました。第6期の委員構成ですが、委員の数が全部で36名、そのうち都民の委員の方が22名、団体の委員の方が2名、行政の委員の方が各市2名ということで12名、総数36名ということで、今までで最大の人数の方が参加していただいております。それから、範囲につきましては沿川4市ということで、広報に載せました。それから第3号として、第5期で、第6期にこれだけは引き続いて頂きたいという項目、主なもの4点がございます。資料7の裏側に書いてありますが、以下の4点を第5期から第6期に引き継いでおります。1番としましては、御成橋周辺整備計画、2番目は河川環境を考えた草本・木本維持管理ルール、3として河川堤防における外来植物の駆除実験、第4に生態系に配慮した河川施設における生物生息状況調査もやったらどうですかというご意見がありました。以上、第5期から第6期へこの4点、主なものを引き継いでおります。流域連絡会の概要、活動状況、引継ぎ事項については以上でございます。

(座長) ありがとうございます。今説明がありました、柳瀬川・空堀川流域連絡会について、質問、ご意見等がありますか。

(都民委員)連絡会で最初のほうにあったんですけども、水量確保分科会の結果はどうなってるんですか。

(座長) 事務局分かりますか。活動状況の2で分科会活動のうち水量確保分科会というのが開かれていたんですけど、その結果はどうなっているのかということなんですが。

(都民委員)川ですから、水量がなきゃおかしいと思うのですが。

(副座長) 先ほど所長が言ったように平成11に第1回の柳瀬川・空堀川の流域連絡会があって、私が生まれたのが昭和12年11月18日で、最初から流域連絡会に関わって十数年になるんですが、最初に川が汚かったのが、段々工事が進捗するにつれ水がなくなってきた。流域連絡会では、水循環ということで随分やってきたけれど、結局固有の水源がない。それで色々な方法で、多摩川から持ってくる水を濾過で流して欲しいとか。柳瀬川に隅田川から流していた水の東村山浄水場に持って来ている分をいづらか流してくれとかやっていた。けれど、雨が降らないと水がない。だから水を溜める工夫をしてという話し合いをやってきた。でも、なかなか我々が思うようにいかない。水が流れるから川だという目的の為に4市、東村山市あるいは清瀬市に請願して東京都に陳情してもらったこともあるんですが、これがなかなか難しい。だから、これは流域連絡会として、どこかから水を持ってこないとだめだろうと思っています。今期、どんな分科会があるかわかりませんが、あれば分科会に是非参加してもらって、意見を出して頂きたいと。結論としては水の確保というのは難しいということです。

(座長) 他にご意見等ございますでしょうか。

(都民委員)6期への引継ぎとして、御成橋周辺整備計画とあるんですけども。

(座長) それにつきましてはこの後、第5期の分科会の活動報告をやって頂きますので、その時にご説明いただけたらと思います。

(都民委員)その時に6期の引継ぎ事項という項目ありますね。これ全部説明して下さるんですか。

(座長) 1番と2番については分科会のまとめになっていますので。

(副座長) 説明します。

(座長) 説明していただけるそうです。

(都民委員)そうですか。

- (都民委員) 分科会のうちの水量確保分科会、これは水循環分科会に変わってるんですか。これは現在ないですね。
- (副座長) これは水循環の間違いじゃないかと思うんですよ。この名前ではなく、水循環と言ったと思うんです。
- (座長) 平成16年の1月30日できたという水量確保分科会が水循環分科会なんじゃないかということですか。
- (都民委員) 無いなら無いとしておかないと、ちゃんとしないと3つあるのかと思う。
- (事務局) 現在は2つの分科会です。ただ、分科会がこういう経緯で立ち上がったということを説明したかったのです。
- (座長) ということでよろしいですか。
- (都民委員) はい。
- (団体委員) よろしいですか？今資料6の3の6期への引継ぎが4項目ということで、これは第5期から第6期への引継ぎ事項が4項目ということで、第6期の新たなテーマはこれからつくるんですよ。そういう理解ですよ。これが引き継ぎ事項ではあるけれども、これだけがテーマなわけじゃない。新たなプラスのテーマはこれから考えていこうと。
- (座長) まあ、ある意味では第5期のときに6期で是非やって頂きたいという項目がこれだということで、6期はその時やるメンバーで新たにやることを決めていただくということで。
- (団体委員) 誤解があるといけないので。
- (座長) はい。それでは他にないようでしたら、次第の8番、第5期の今、言いました活動報告をして頂きたいと思えますけれども、活動としましては、今申し上げました通り、水循環分科会と河川環境分科会の2つに別れて活動していましたので、それぞれのまとめ役でありました〇〇委員と〇〇委員のほうからご説明頂きたいと思えます。資料の7の活動報告に沿ってお願いしたいと思えます。それでは、水循環分科会のまとめ役でありました〇〇委員の方からよろしくお願ひいたします。
- (副座長) 第5期のまとめとして、私は水循環分科会のまとめ役として、分科会も含めて何回か開催をしてきました。5期は平成21年度から22年度の二年間で、21年度の一年間は極力水を溜めておく環境を考えて、22年度はこの春に分科会が変わってきたと。そういう意味で、21年度は川の中のいわゆる洪水が出たときに水を溜めておく河道内調整池があるんですよけれども、これを雨がやんだらすぐに開けて水を流すんじゃなくて、ゆっくりと流すような方法を考えようじゃないかと。そういうことを議論をしました。これについては、常に開けておいて次の洪水が来たときの準備をしておかなければならない。だからなるべく早く開けてしまうんだということがあってですね、そういうことじゃなくてという考え方をしてきました。それから、せっかくの雨をゆっくり流すための浸透施設、樹木を植林するとかそういうことで浸透力を高めたほうがいいんじゃないかとか、そういう議論を21年度の間やってきたんです。それから22年度は、お手元にくばりました資料の7。御成橋のところは武蔵野線のトンネルがあり、そこから1日平均ですが650 m<sup>3</sup>/日の水が空堀川に入ってくる。これが次の達磨坂橋までいかないうちになくなってしまふ。もうちょっとこの流出水をつかってですね、もうちょっと整備して芝生広場を子供たちが活用できるようなものにしたい。という提案をして水循環分科会としては議論をかさねました。地元の公園の整備については環境分科会がまとめたものがありますのでそれと合わせました。というわけで、こういうことができたわけですが、これはあくまでも市民で作った案ですので、今後これができるかできないかはですね、今年度第6期でもって議論していきたい。そして、御成橋の左岸から出ている水の下流に流れているものを向こうの方へ持ってきて、そしてそこから流すというような事が果たして出来るのか出来ないかとかですとか、それからワンド、水溜りを活用することが出来るのか出来ないか。こういうことについてもこれからやっていきたいと思っています。とにかく JR 武蔵野線の地下水はこのところ、私もしょっちゅう見てるんですよけれどもあまり出てないんですね。やっぱり雨が少ないから水はでてないんだろうなと思っています。でも年間平均するとですね、650 m<sup>3</sup>/日ぐらいの水が出てるのでこれ

をやっぱり活用しなきゃだめだということで〇〇の協力を頂いてですね、JRの構内に溜まった水は一応汚水なんですね。その汚水を空堀川に流していいのかどうか、流すというのならそれなりの許可を頂かなければいけないんです。ということで、環境河川、管理課の〇〇課長さんをお願いしてJRに交渉してきて頂いています。それについても後で市の方でお話があればいいなと思っています。とにかく、そここのところを整備して、これからの空堀川の上流の何箇所かの、具体的に言うとですね、芝中調整池とか、それから武蔵村山とかこれからたくさん調整池の広場ができてくるから、そういうもののモデルにしていきたいと、そこをなんとかみんなでもって、維持管理も含めていいものにしていきたい。そういう風に思っております。だから今年度はメインとしてその御成橋周辺の整備をみなさんで進めていきたいなど、これが水循環分科会の報告です。以上でよろしいでしょうか。

(座長) はい。どうもありがとうございます。続きまして、河川環境分科会の説明をして頂きたいと思いますので、〇〇さん。よろしくお願ひします。

(都民委員) 〇〇でございます。まず前々回の第4期、平成20年ですか。その時にやっと流域の河畔、あるいは川に関わるところに植栽をしていこう。歩いたときに日向でとても暑いときに夏、大変なところで、少しずつ河川管理道路に沿ってその用地があったら、木を植えていきましようということで、第4期の終わりに東大和市の市役所のご苦勞、それから東大和市の委員の皆さんの大変なご協力をいただいて植樹を始めました。第5期に続いても、そのまま植樹は続けられるかなと思ったのですが、そうはいきませんでした。河川の木を切らせて欲しいということで、川の中に生えているクワの木を少しずつ切って根も掘らせて欲しいというお話がありました。そういう樹木があっても流下能力を持っただけの設計がされているのではないかと。これまで一度も木によって危ないということがあったらどうか。ということで、第5期の2年目に入りまして、今の〇〇係長さんがいらして、まずはじめて目的をもった河川の観察を始めました。清瀬の城前橋から2回にわたって、果たして流下能力を阻害するような木があるだろうか、木はどのくらいの高さになっているだろうか、どんな木が何本ぐらいあるだろうか。そういう目的を持った観察を始めました。2度にわたって、左岸、右岸に分かれてその調査をいたしました。その調査をもとにして、まず皆が知らない間に河川の木が切られることのないように、樹木ルール、樹木の維持管理ルールを作りましょう。それで、昨年はかなりの時間をかけて、河川環境を考えた、草本・木本の維持管理ルール、それぞれ空堀は空堀、柳瀬は柳瀬、なんとなく同じような川に見えますが、植生もそれぞれ、環境もそれぞれ、柳瀬川は柳瀬川、独特の植生があります。それから川の作りがあります。柳瀬川の空積みの巨石の間からは非常に単調な川をその間から出てきました樹木がいい環境にあります。そういう時に、そういう木をどうしたらいいのだろうか。そして、今少なくなっているススキをなんとか守っていききたい。それだけではなくて、特殊な土手本来の植生も守っていききたい。ということで、そこに住んでいる団体、市民、管理をしてくださる業者さんみんなが認識をもって当たっていこうということで、河川の維持管理ルールという、これはかなり詰めた議論の結果、生まれてきています。この中にはまだ、北北建さんの意見は入っていないので、ここへ入れてくだされば、おそらく今日あたりまでに東京都も考えて、こうなりましたよというものが提案されてくるのではと大きな希望を持って出席いたしました。それと、もう一つは、初めて河川の一つ一つを歩くときに目的、恐らく今回初めて参加された方も空堀や柳瀬川を知っていただくためにも河川の観察、河川を歩くということが組み込まれていくのではないかと思います。本当にいい川にしていくために水量確保、水があって初めて生き物がつながります。水のない川に生態系を求めても無理です。魚がいなければ、サギ類、カワセミも来てくれません。ですから、なんとかして環境部会としても是非今期、環境部会があって繋がっていくのであれば、共に水を求めた活動をしななければならないと思います。というわけで前回、河川を利用するためのルール作りもやっと出来ました。川には看板は立てられないところを4本の看板を清瀬市には立てて頂きました。やっぱり環境がよければ、沢山のバーベキューのお

お客様が押し寄せます。これからもそういう利用の仕方、あり方も大事な議題になると思うんですが、もう一つありがたいと思うのは、上流から清瀬・柳瀬川の川全体を通して非常に活発にごみ拾いをして頂けるようになりました。川が綺麗になってきたんです。その時に前期の一年目、川で皆さんが拾ったごみは北北建が片付けると合意が出来ております。前はそんなところで、今期また、一番困りますのは現在、河川は外来種、帰化植物の見本園のようになってしまってます。果たして今期は引継ぎ事項としてそのようなものが農林省なんかで実験的に行われているものを少しずつこの川としても取り込んでいく事が出来るのではないかと、それからせっかくワンドが出来たら、そのワンドがどのように活かされているのか皆で魚類調査もしてみませんかという事で、環境部会、水量確保委員会にしても同じ河川の問題をこれから話合っていくのですが、そんなところまで前期は参りました。また、引継ぎ事項が4項目あげられていますが、まず固めて頂いて、6期は他にどのような事ができるのか話合いが出来たら良いと思います。よろしくお願ひ致します。

(座長) どうもありがとうございました。では、両分科会の活動について質問がありましたら。この後、第6期をどのように進めるのかという事を議論したいと思います。よろしいですか。また次の話の中で質問等ございましたらその時に伺いますので、続きまして次第の8までが終わりましたので、9番目の進め方についてに行きたいと思ひますけれども、その前に先程お話のありました、委員のみなさんの自己紹介、どんな思いでこの流域連絡会に参加されたかとか、あるいは各市の行政委員の代表の方にご意見、ご感想などをお話いただければと思ひます。それでは、基本的には先程の委員名簿によりまして、順番にお願ひしたいと思います。

(団体委員) 私は、この連絡会はいままで清瀬の自然を守る会という団体から代表を出していたんですが、今期は二人で、私が団体代表ということで出させてもらっている。普段は私たちは清瀬の自然を守る会という事で、清瀬の自然に関する全般的な事をやっています。河川だけではなくて、雑木林、あるいは学校教育その他色々やっているんですが、河川についても重要な項目でありますので、金山調節池のワークショップを立ち上げたときも、一つは地域の分科会という感じでやっているんです。柳瀬川中流域にある金山調節池を中心として、柳瀬川流域の環境的なことをやっています。これから先、行政と連携していい川を作っていく、そのへんに関していろんな意見を持っています。柳瀬と空堀はだいぶ様相が違う。環境とか樹木とか全く考え方を違ってもっていかなければいけないだろうなど、そういう具体的な話し合いを今期で進めて頂きたいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひします。

(都民委員) 3年前から両川の合流地点あたりから空堀の旧河川を散策しているのですが、両河川は綺麗になったが清流の維持を願って参加した次第です。若い頃、東北の最大の川、石川啄木の北上川の事業に携わっていました。柳瀬川が昔の綺麗なままであればいいと思ひます。柳瀬と空堀では本質的に違うので、別に捉えて分けて検討する必要があると思ひます。

(都民委員) 5回目です。続けてやっているんですが、今まで水循環ということで、〇〇さんも言ってきましたが、大きな問題でどうしたらいいのか分からないといった形で跳ね返されてきたのですが、一応御成橋の土手の水を少しでもなんとかしようという格好で成果があげられたら、何か形になればいいなと思ひます。それから私どもは柳瀬川と空堀川の合流地点の工事の話し合いをやっているんですけども、去年はギリギリまで水が上がってきまして、これに柳瀬川の越流した水が入ってきたらどうなるのかと、住民が不安に思っているのが一つ。それからもう一つ。柳瀬川に残っている自然の河畔林の問題。こういう二つの大きな問題を抱えていますんで、こういう問題を話していいのかわかりませんが、皆さんの意見を聞きたいと思ひ、今回出席いたしました。よろしくお願ひします。

(都民委員) 分科会として河川環境分科会で前年度はやらせて頂きました。その継続として、私も更に前進し、分科会の効果をあげていく事が必要だと思ひ参加しました。以上です。

(都民委員) 今、〇〇さんがおっしゃられたように、清瀬には天然護岸、河畔林がある。これは川が



作り、歴史が作った河畔林です。そこに今まさに、北北建さんがショートカットをして今の合流点よりも約 500m ほど上流に工事をしてくださるということに関して、どのように工事したらよいか。旧川も活かすので、旧川にはどのくらいの水を流したらいいのか、そして形としてはどのような形、構造にしたらいいのか、この二点について懇談会を持って下さいました。これから水理実験もして下さい、モニタリングもして下さい、そして決めていこうというまだその時点です。そして皆さん、柳瀬川、空堀川、天然護岸は東京都でも本当に貴重な場所です。今とても素晴らしい環境を作っています。そのほとんどが残されるという事は決定です。ただ合流点のところかどのように変わっていくのか、今、何が問題か。それは予知しないゲリラ豪雨です。それに対して市民がどのように身を守っていくのか。河川管理者はどのように水を安全に流すのか、そこをクリアして、なおも環境も考える。今そういうところにきているのかと思います。そういう視点で考えながら、天然護岸に皆さん足を運んでご覧頂けたらありがたいと思います。

(都民委員) 私の家の前を空堀川が流れています。川を毎日見ているので、川の中のゴミが気になりますのでだいたい週 1 のペースでゴミの回収をしております。仲間とやっているのですが、そういう意味では、清流といいますが、常に川が綺麗でありたいという気持ちが強く、この会に参加させて頂きました。よろしくをお願いします。

(都民委員) 私は、川との関わりという意味では、幼少の頃、私のいた実家のすぐ裏に川がありまして、そこでよく遊んだ、川を見ながら暮らした。それで、東京に来てからはちよくちよく、散歩とか。特に最近では武蔵野線を利用した場合、川を見ながら行くので、都市河川と地方河川との役割も違うと言われていました。まだ全然、分からないものですが、これから皆さんと勉強しながら、私の中で自分の考えも出てきたらと思います。よろしくをお願いします。

(都民委員) 私の家は柳瀬川の日向橋、すぐ川の脇に家があります。家の玄関脇の所が日向橋です。その日向橋で川づくり懇談会やいろんな団体が水質検査をされていて、私の友人も川づくりの懇談会とか自然を守る会とかといったところで活動されていたもんですから、何か役に立てればと思い、応募しました。一つは柳瀬川がもう話題になっていますけれども、ゲリラ豪雨というのが盛んに言われていますが、柳瀬川も非常に台風の時期あるいは大雨の時期などの出水が大変なんです。私の家が川のすぐ横なものですから、子供や孫たちもどこかに避難したいと身の危険を感じる。空堀川の方は普段は水はないのですが、かなり出水している。その台風、大雨時期の水量管理、安全管理ができないものか。それも一つの応募したきっかけです。もう一つは空堀川の方は遊歩道が完備されています。でも、柳瀬川は工事されている合流部分の合流した後の上流側は遊歩道がない訳です。ですから例えば家から清瀬橋へ朝のランニングに行きたい時や自転車で散歩したい時も遠回りしないといけない。遊歩道がないですから。上流の方も西武池袋線がありますが、西武が清瀬を渡る間は遊歩道が全然ありません。非常に遅れています。なんとか早く遊歩道を作る方法はないのか。そして特に高齢化社会対応した遊歩道、健康促進、川に親しみながらあるいは野鳥だとか、草木とか、動物に親しみながら高齢社会の人と人をつないでいくような柳瀬川の川づくり、空堀川に遅れない柳瀬川の川づくりをして欲しいと思っています。生命の安全というのが一つ、もう一つは今申し上げたとおり、高齢社会に対応した川、川べり、環境などを与える、水質を浄化して、みんなが、高齢者が親しめる川を取り戻したいというのが私の気持ちです。

(都民委員) 私は清瀬で生まれ、清瀬で育って、ずっと柳瀬川で子供の頃は遊んでいましたので、是非、昔のような柳瀬川にしたいという思いがあって、これに参加したんです。昔の柳瀬川というのは合流地点の自然護岸、それが清瀬橋すぐ下流にもずっとあったんです。それで、うなぎが獲れた。是非そういう昔のような柳瀬川にできたらいいなという事がありました。今、柳瀬川も空堀川もそうなんです、落差工が結構ありますよね。でも、私が子供の頃はああいふ落差工というものはなかったんです。ですから川の中も非常によくて、そういう川に戻っていききたいという思いがずっとあるんです。ですから、今ある合流地点の自然護岸も是非、清瀬の文化遺産として残して頂きたいと思っています。

で、無くされるような行為はして欲しくないと思っています。よろしくをお願いします。

(都民委員) 私は、清瀬の自然を守る会の会員として、清瀬の自然の保護育成にずっと携わっている。これは河川、雑木林、その他いろいろ自然保護を全般にわたって活動させていただいております。今回応募したのは、活動の中でも特にやはり柳瀬川流域、調節池に興味がありましたので、柳瀬川を中心に応募の小論文を書いて提出しました。柳瀬川は今、人によっては魚がたくさんいる、生物がいる、清流じゃないかとも言われるんですが、本当に柳瀬川というのは清流なんだろうかという疑問もあります。柳瀬川は例えば清瀬橋から清柳橋、その間が 9.3km あるんですが、ほぼ平面的で、深いところや浅いところがない。それから植樹帯もない。典型的な都市型保安河川です。それが本当に自然の河川なんだろうかという風に僭越ながら思っているわけです。また、空堀川の方を散策するとほとんど水がないんですね。私、毎日行っているわけじゃないんですけど、よく行くんですけどほとんど水がない。柳瀬川一本でも清流に戻すためには、清瀬だけでなく他県の流域も参画してもらわなければ清流に戻すことはできないという風に考えています。清流の条件っていうのはよく分からないんですけど、柳瀬川の水質はどうなっているのか、そういうところはまだ私は分かりません。本当の清流というのは何を基準に清流なのかということも分かりませんが、それは色々条件があろうと思います。ただ、ある程度清流に戻すということは、川に変化を持たせることが大事じゃないかと思うんです。一番はやはり河畔林、樹木。それが第一じゃないかと思うんです。ワンドという話がありましたが、私の見た限りワンドというのは清瀬橋の下流一箇所しかないという気がするんです。だからもう少しワンドを作って、曲流帯をつくる。川に変化を持たせることも川を本来の清流に戻す一つの条件だと考えています。微力ながら、連絡会にも極力参加して、尽力したいと考えております。よろしくお願い致します。

(行政委員) 前回、第 5 期に引き続きまして、水循環分科会のほうで参加させて頂きまして、引き続き、第 6 期もお願いいたします。清瀬市につきましては、これまでも柳瀬川を主流として過去をみましても、かなり河川の水質が悪化しまして、下水道の整備に伴って現在に至っているということで、川祭りというイベントを始め、今月行います環境フェア、地域の方々も自然環境に関心が高く、そういった思いの高さがありまして、清瀬市としてもみなさまのお力によって清瀬の環境に対して形にしていければ。今月末日曜日に柳瀬川を主体として一斉清掃というような活動も控えております。こういった中で、今後新たに〇〇〇〇〇市長ということで、清瀬市では柳瀬川回廊という大きな注目の構想があり、現在着々と進めているところであります。新たな市長もこの柳瀬川回廊に非常に力を入れているという状況です。

(都民委員) 2年前に会社を卒業して今、週に3、4日秋津から散策しています。さっき、環境係の委員の方からお話ありましたけれど、本当によくできているなという感じを持っているんですが、木が枯れている場所もあったり、そういう箇所も沢山ございます。もっとやりようがあるんじゃないかという風に思っているんです。話は変わりますが、伊豆の方の河津桜。あれは2週間ぐらいの間に100万人来られるんです。そうしたら、もっと住んでいる人間だけじゃなくて、あの川を利用して人を呼ぶということができないだろうかということを思ったりしているんです。今はちょっとやっぱり、大変残念ながらさっきから言っていますように水のない川な訳で、これは本当に行政の方も苦労していると思うんですが、水をどこからか持ってこれないだろうかという気持ちであります。我々のほうでもお手伝いできればいいなあという思いで、この会に参加しました。

(都民委員) 私は昭和の終わり頃からすみ始めて、最初は川があるとは知らなかったんです。それでしばらくして工事が始まって川が広げられて、それで川が現れて、今は2階の窓を開けると川が見えて、のどかな風景が広がっています。自転車で 15 分ぐらいのところまで家庭菜園をやっているんですけども、毎日川を見ていると、非常に環境がいい。本当に気持ちのいい川なんですけども、時々、水がなくなるのがとても残念なんです。やはり木なんかを植えて、もっといい環境にしたら、本当に気持ちのいいところになるんじゃないかな

と、名所にしてもいいんじゃないかなと思っています。

(都民委員) 4期から参加させて頂いています。私の住んでる周りは新秋津で、歩いて10分ほどの所に柳瀬川、歩いて約30分ぐらいのところまで空堀川に行けるんですけど、私の見る限りは柳瀬川は水に親しめないつくりになっている。ほとんど3面ばかりになっています。空堀川はかなりいい景観なんですけど、水がない。柳瀬川は水があるんですけど親しめない。ここに入る前に、空堀川に清流を取り戻す会に入って、少し活動した中で本当に空堀川には水が少ないんだということで、水を取り戻すための行動をしている団体として参加させてもらうようになりました。5期で御成橋の水の利用が話題になり、実現を夢見て6期も参加させてもらいました。よろしく願いいたします。

(都民委員) 清流を取り戻す会の活動を始めて一年位になります。実は御成橋の件に関しましては色々情報を頂いておまして、いかに具体的に進めていくかということが今回参加した目的です。もう一つございまして、芝中橋。東村山だけじゃなくて、上流も含めて考えて見ますと、隣の東大和の工事が今、だいぶすすんでいるのですが、この状況について、こういうことにまったく首をつっこまない市民の人はどういう風になっているのかということがほとんど分からないんですね。市報などをみてみますと、具体的に発表されているわけなんですけど、東村山は現状工事はほとんどございせん。ただ今、御成橋の問題があるということなんですけど、それよりも上流の芝中橋が問題になっているので、これも含めて今後、皆さんのご意見をお聞きしたいと思っています。

(都民委員) 今回初めて参加させて頂きます。こちらに東村山に25年ぐらい住んでいるんですけど特に最近空堀川が話題になっています。本当に水がない。2年ほど前にゼネコンを定年になって去年の10月に週3日の勤務になったので、〇〇さんから手伝ってくれないかという話があって、私は土木のエンジニアなので、そういった土木的な水理の計算や力学的な計算もできますので、手伝いできるかと思います。私が見るところは今の空堀川の状態から言って、洪水がおきないようにかなり改善ができていっていると思うんですけど、計画停電などで電気が来ない状態で火事が起きたらどうなるのかという心配があります。今の空堀川の状態ですと、所々水がないわけですよ。あの状態で火事がおきたら消防車が来ても水がない。それがちょっと心配だなと。それからヒートアイランドという事で、私、十数年前に駅の近くに住んでいまして、その頃は汚水が入ってしまっていて汚かったんですけども川に近づくと、計ってみたら1℃から2℃ぐらい温度が下がるんですね。今の状況ですと逆に川が熱源になりかねないという事があるんで、やはり水量確保という観点ですね。それからあまり公園が整備されていない。結構ジョギングとか散策されてる方はあるんですけど、途中で何箇所か休憩したり、トイレに行ったり、場合によっては雨宿りしたりする所が欲しいという感じがしています。大部分はフェンスで鍵がかかっています。防犯上の問題もあるのでしょうか一般の人が入れる状況になっていない。それは少し改善して頂けないかと思っています。

(都民委員) 東村山に来て10年になります。空堀川に清流を取り戻す会に参加させて頂きまして、今も活動しています。先ほどから話がありますが、空堀川の問題というと水ということに尽きると思います。10年前に比べて確実に水量が減っている。水がない期間、水がない区間、両方とも増えていると思います。あと、この会では定期的、継続的にクリーンアップ活動で、ゴミ拾いをしてはいますが、ゴミの量は増えている。これはやはり水がないからで、水がないと住民の方も何も魅力を感じないんです。このままではどんどんゴミ捨て場になって、下手をすれば最後、蓋をかけることになりかねない。少しでも可能性があるなら誰かが言わないと。大きな意見は大きな意見として、例えば蓋をかけろという意見があってもいい。でも、そういうところを守っていかないとあつという間に行ってしまうんじゃないかと。その発言の機会として第5期から参加させて頂いています。で、御成橋周辺では限られた水源、湧水を利用して、砂漠のオアシスになっている感じがします。でもそこで諦めたら、水がないのが当たり前、子供たちが遊べと言われても遊べない、川なんだろうかと考えてしまわないように、少しでも力になればと思います。よろしく願いいたします。

(都民委員) 私は、4年前から4期5期とやっていますが、一番感じる事はなかなか進まないなど。私が入ってから実際に現地で状況が変化したのは植樹が少し増えたぐらい。あとはこちらの会議室で計画をしているということの繰り返しです。で、なぜ進まないかという予算がないということで終わってしまう。予算がないなりに何か決めていかねばということで、前期、御成橋周辺の整備計画を作った。これを今度6期、あるいは7期までかかるかもしれませんが、なんとしても現地で実現させる。どうしても先行事例を作りたい。最初、連絡会に入ったときは周辺の住民に空堀川の話をして全くだれも関心がないんです。やはり魅力がない。魅力がない理由は水がない。水がないからカルガモが川底を歩いている。周辺の方々が関心を持てるような川にして、まちの魅力向上に役立てたいという気持ちでいます。

(都民委員) 私は平成8年に空堀川に清流を取り戻す会を作ったんです。それで平成10年にNPO法人に組織替えをしました。それから10年しまして今はやめていますけれども、その会を作った目的はなんとか空堀川をよみがえらせた。清流を取り戻したい。それから追加の目的として環境保全とまちづくりをやっていきたい。それから子供の環境学習をNPOの活動の目的としてやってきた。空堀川というのは最近できた名前です。昔は別の名前と呼ばれていたんですけど、昭和40年に一級河川になった時に空堀川という名前に統一されたんです。昔はあんな感じじゃなかったんですけど、私が気がついた時には川底が3mで、法面がどれぐらいか分かりませんが、2対1とか1対1とかそれ位で、浅い川で、生活排水が入って雨水とで溢水すると、そういう川になったんです。今は7割の改修が終わって、10倍の水が流れても安全になったんです。ゲリラ豪雨なんかはありますけど、ある程度の水が流れても安全な川になってきた。そういう意味で川を良くして、水を流していかないと地域の発展なんてないと思うんです。こういう流域連絡会を通じていい川づくりをしていきたい。右岸の例もありますけど流域連絡会でモデルにして御成橋をいい環境に整備したい。という思いをもって、今期は精力的にやって行きたい。よろしくお願いします。

(行政委員) 毎年来るたびに私の課名が変わっているという事をご存知でしょうか。3年前は道路交通課長だったんですが、去年は道路課になりまして、この4月から道路管理課という課ですね、3年で3回名前が変わっています。これにつきましては道路の維持補修部門である維持補修係というのがあるんですが、河川や道路を低予算を使って市が直営で河川の護岸が崩れたとか、道路の陥没とかというものを、軽微なものですが、私の所でやるという事で道路管理課という名前に変わりました。今後はそうそう変わらないと思いますので、道路管理課で覚えていただければ。日常の業務としては、空堀川に関しましては東京都さんの管理の川ということであまり出しゃばったことはできないのですが、清流を取り戻す会の皆さんが年に2回、空堀川のクリーンアップキャンペーンということで4月と11月に河川清掃をして頂いて空堀川もずいぶんゴミがなくなって綺麗になったという事ですが、上流部分の回収されたゴミをうちの職員が出て回収するお手伝いをしています。その他、今度の日曜日には北川で同じようにクリーンアップ作戦という形で、最上流部は日向橋から最下流は柳瀬川と合流する部分、約2.3kmくらいの全河川の河川清掃です。その時もゴミの回収をお手伝いします。先ほど〇〇さんから空堀川は10年ぐらい前から水が濁ってきたという話がありましたが、ちょうど10年前と言いますと、東村山の分流式の公共下水道の汚水の工事が完了しました。当時、空堀川は水量が多くて大変汚い川で、私がよくいく飲み屋さんでは空堀という飲み物があるんですね。これは焼酎のお湯割の梅干入りなんです。お湯に焼酎を入れて梅干をグッとやると濁るんですね。それが空堀というちょっと粹な飲み物なんです。空堀川は水が多くて濁った川だったんです。先程から皆さんのお話の中でも、川は綺麗になったけど水がなくなったというのが現状ですが、今、そういった中で、日常市民から多くの要望を頂いています。特に空堀川の側道に関しましては、東京都さんの管理ではあるんですが、一部、東京都と協定を結びまして、公園とかそういったものを側道を含めまして、市の方で管理させていただいております。東京都さ

んが作ったものを協定を結んで市の方で管理させて頂いている。具体的には側道に外灯をつけて欲しいとか、散策のときにトイレがないとか、橋梁部分については一般道路と交錯するので、横断歩道とか交通安全対策、信号をつけてほしいとか色んなご要望いただいているんですが、河川法上の河川要求度という事になるんですが、河川管理者の東京都さんのほうでもなかなか難しい問題もあるんですが、そういった事については今後も市民の立場、市民の目に立って出来るだけお願いすることは東京都にお願いするし、市でできることは市のほうでもお手伝いしたいと思います。

(行政委員)この4月から委員として仲間に入れて頂きました。先ほどからお話にてしています空堀については昔、水の関係でちょっと関わったことがございまして、空堀の源流というのは野山北公園、最終的には柳瀬との合流地点まで約14kmですが、昔、上流から河川敷を歩いたという経験があります。その当時は河川の幅が5mいかなかったかそれぐらいの川だったところが、治水対策を含めて、だいぶ広がって水もなくなってきたという現状、川に水がないので、湧水を活用出来ればということが是非実現出来ればと思っています。がんばっていききたいと思いますけれども、みなさんご協力の方、よろしく願いいたします。

(団体委員)川との関わりは20数年前に東大和市に引っ越して参りまして、これが空堀川の川岸でした。5月に引っ越して夏を迎えたところ、とんでもない川だということが明らかになりました。当時は下水が流れ込んでおりまして、大変腐った川で、臭いもひどかったんです。ということで、川に関わらざるを得なくなったということです。これは臭いだけじゃなくてですね、川に自転車は放り込んであるというような状況でした。すでに話は出ていますが、川とはやはり綺麗な水が流れいて、そこに生き物がいてはじめて都民、市民に親しめるであろうということだと思います。まして水が流れてなければ川ではないだろうと思っています。結局、そういう汚い川、臭い川に接して〇〇さんが理事長を務めていた当時の清流を取り戻す会に入会をさせて頂きました。その後平成14年に東大和市内で会を発足させなければいかんということになりまして、今は両方かけもちで東大和市では空堀川を考える会という会の代表を務めさせて頂いております。ひと口にはいい川づくり。この言葉もすでに出ておりますけれども、これはかなり分かり易い言葉で表現をしております、かなり時間もたっておりますけれども、ストレートに響く言葉であると考えておりますので、私もいい川づくりという事を広めようとさせて頂いております。同時に、その延長線上で、川づくりはいい街づくりに繋がるという風に考えています。具体的にはクリーンアップですね、河川の清掃等をやっています。今日も資料を挟み込ませて頂きました。これは前5期の流域連絡会で河川清掃をきちんとやりましょうという話になりまして、流域連絡会のクリーンアップキャンペーンの一環として取り組んでいます。4月には東村山市の清流を取り戻す会と初めて同時開催という事で4月24日にやりました。私は一口に言って、健全な水循環という言葉がありまして、この言葉を是非、提唱してもらいたい。併せて、総合治水対策という言葉があり、この辺のところは実行されているのか。されてないわけではないだろうが、結果として十分な結果が得られてないんじゃないか。例えばこの流域連絡会にしても河川部は出てくるんです。総合治水ということからすれば整備の方も出てこないとおかしいんじゃないでしょうか。あるいは環境という話も出てこなきゃおかしいんじゃないでしょうか。こういう風に思っているところです。ですからもし、河川部が流域連絡会を進めるのであれば、環境も含めて、総合治水というところもきちっとした捉え方でやって頂きたいと、これは是非お願いをしたいと思っているところであります。それから引継ぎ事項で、先ほど確認をさせて頂きましたけれども、前期の御成橋のモデル事業についてはもちろん関わらせて頂きますけれども、同時に柳瀬川の東大和市のところですね、工事はどんどん進むんです。で、工事の進捗状況についても流域連絡会の中で報告をしていただくということで、前期の中で確認をされていますけれども、今5つある工事についてもこの流域連絡会の中で取り上げてもらえればありがたいなと、また、そうするべきだと思います。具体的には柳瀬川と空堀川の合流地点もそうでしょうし、今現在高木橋、これは東大和市内なんですけれども、これも一つありますし、それから東芝中橋のところについて

も、あるいはその高木橋と東芝中橋の間が地形的に起伏があるもんですから蛇行しているわけですね、川が。そこが昭和 40 年代の都市計画に従って直線的になって部分的に調整池という形になってはいますが、ここもまもなく繋がるんです。繋がったときにどういう風になるのか。非常に大きな川になるんです。すでに昔の川を知っておられる方の話にも出ておりますけれども、小さい狭い川だったのがとんでもない広い川になるんです。これは、平常時と大雨のときの水量の差が非常に大きいということです。治水上はたしかに断面に深さと幅も持たせなければいかんということにはなるんですけど、360 何日の平常時は浅くて広い河の中を水が流れるわけですから、先ほどから出ているように水温が上がってしまう。大気温より水温が高くなってしまいます。そういうことが頻繁にある。今流れている実質上の源流、東長戸橋のところから工場排水が流れているんですけど、それとこの水では途中で地盤に染み込んでしまうという、今、起きている東村山の水涸れ問題は東大和市でも起きるんじゃないか。そういう意味では具体的に芝中調整池というところがありますけれども、河川の工事が進もうとしている今、蛇行部分なんですけど、ここも、新しい川と今流れている川、源川とか新川と源川とかこれを両方活かした 2way 方式とか、そういう形でやらざるを得ないかなという風に思っております。是非、第6期、今期についてはこういう事も具体的に、もちろんそれぞれ地域の問題ですから、流域全体とするのは難しいという事であれば分科会方式でも懇談会方式でもいいんですが、取り上げて頂ければ大変ありがたいと、色々ありますけれども時間もありますので以上とさせていただきます。

(都民委員) 私は東村山市と東大和市の境といえますか、清水富士見緑地の中に住んでおられて、幸いにして、あのあたりは水が涸れた事は私は見たことがないんです。いつも水があって、水鳥が遊んでいます。特に冬はカモとかサギとかがとても多くて、大きな富士山が清水大橋から見えて、とてもいいんです。やはり、環境の団体にいますので水辺の植物、生物も目に入り、季節の移り変わりを見えています。子供たちの緑の環境学習は非常に多いんですが、水辺での環境学習が、やはり水が危ないとかそういう考え方に基づいているんでしょうか、あまり多くないので、やはりとてもいい親水護岸がありますので、子供たちにも水辺での学習の機会を与えたいなと思います。清水緑地から歩いていくと四小のあたりまで行くと小さな階段があるんですがいつも鍵がかかっているんですね。だけど、何かの時に、上に上がりたい方や上から下に下がらなくちゃいけないような場合、やはり上がったたり下がったりする場所が緊急の場合必要なので、鍵は要らないんじゃないのかと思うんですよね。そのあたりを考えて頂きたいなと思います。あと、これから6月7月とか、いろんな草が、子供の身長ぐらいの草が生えてきますので、子供が隠れてしまうような長さになるときもありますので、年 2 回草刈をやるんですけど、あと 1 回ぐらい増やしてもらってもいいかなと思います。結局草が伸びているとそこにゴミを捨てやすいんです。草が短いほうが捨てる側ちょっと考えてくれるんじゃないかなと思いますので、あと 1 回ぐらい草刈をお願いしたいなと思います。あとはこの間、2、3 年前にした植樹ですけど、だんだん木らしくなっていて、今年は少し深みもできるんじゃないかなと楽しみにしております。

(行政委員) 東大和市の行政の立場で、土木課の私と環境の〇〇が委員として出席しております。私の方は土木課、単純に道路の管理の方です。私はこれで 3 期目になりますが、〇〇の方は今回が初めてということで、よろしく願います。土木課と環境課がでておりますが、土木課の私の方は河川の関係で申し上げますと治水の関係ですね、〇〇の方は環境課ということで環境に対する面で開催しております。東大和市は今現在、工事の最中ということで、3 面張りではなくなっている分、緩傾斜の護岸ですとか、東京都さんのほうでも環境に配慮した構造になってきていると思います。当面は治水ありきの環境ということになると思いますが、環境に極力配慮したような河川作りということで、皆さん方、市民の方、都民の方と東京都さんとの間のパイプ役ということでできることがあれば協力してまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いします。以上です。

(都民委員) 今年初めて参加しました。この会に応募した理由が二つありまして、一つは私の職場と

いいですか、シルバーセンターから派遣されて仕事をしていたんですが、仕事先が空堀川の源流地帯、野山北公園の管理人をやっている。ちょうど7年。8年目に入りました。これを三人の仲間と年間 359 日つまり、暮れ、正月の3日、3日、6日間を除いた以外は日曜祭日関係なく三人のうち誰か一人は常駐して管理するというので、是が一つの市報に載った記事を見て、興味を持った理由です。もう一つはこの源流の管理をやっているだんだん興味がわいてきて、記録といえますか書物といえますか関連書籍を調べていくうちに、空堀川に清流を取り戻す会の記事を見つけたんです。これが確か代表の〇〇さん、今気が付いたんですが、〇〇さんにインタビューするという記事を拝見しまして、それをわざわざコピーをとって持って帰ったのを覚えています。そのことが頭にありまして、やっぱり空堀川に興味のある人、会というのがあるんだなということで心強く思ったんです。そこにこの応募の記事が載ったものですから、早速、論文らしきものを書いて出して、今日、この席に座っているわけです。それで、野山北公園というのは空堀川の源流なんですけど、空堀川自体全体の長さからすれば武蔵村山の長さというのは微々たる物なんですけど、微々たる物なんですけど、なんと言っても源流ということで、源流の状況が意外と知られていませんで、元々は都の公園の一角で、その中の一部が武蔵村山市立野山北公園。ちょっとややこしいんですけど。私がこの仕事を始めた7年前はまだまだだったんですけど、今は都の方の公園管理が非常に整備されてまして、それに追随するかたちで私どももやって、都立、私立ともかなり環境がよくなっています。これをほったらかしておくと、たちまち源流はなにしろ落ち葉がすごいですから、それから公園であるが故にゴミが持ち込まれるということで、たちまちそれが川に溜まって、たい肥、つまり下水になるわけです。7年前にそこにいくと臭いがしてきたんです。下水の臭いが。これじゃたまらないということで、仲間と一生懸命にやって、そういう風に落ち葉が堆積してたい肥状になることもありませんし、いわゆる源流の清流が流れる状態にしてあります。それから、先ほどからみなさんのお話の中に水がなくなると、ない所があると、という話がしばしば出てくるんですけど、私どものところでは全く水がかれることはありません。これは年間 365 日一日たりともありません。僅かではありますけれども流れています。それが途中でなくなるということは途中の流域の中での環境の変化によるものだと思うんですけど、そういうことに非常に興味を持ちました。したがって、これからこの流域連絡会で、考えていきたいなという風に思います。参考までに源流地点のことを申し上げますと、さっき申し上げた落ち葉の問題とか、ゴミの問題とかいうこともありますけど、水が絶え間なく流れるということを利用して、市内の小学校 5 年生が稲作りをしていまして、その水田があります。その水田のための水と、野山北公園はカタクリの群生地なんです。カタクリが3月の25日から4月の5日。そのための水と、その水をさらに利用して、ショウブとかミズバショウを栽培しています。できるだけ源流ですから自然環境を保ちながら人工的な手を加えないでということです。そのまま流したんではまずいと思いますけど、幸いにして、たんぼあるいは植物を育成した後、池に溜め込みまして、その池をまた釣堀として無料で開放されている。まず、雨が降ろうが雪が降ろうが釣り人が来ない日がない。それぐらい市民、市民というよりも東村山市、立川市、国分寺市の市民の憩いとなっているんです。無料という事もあるんですが、そんなのが源流の状況です。参考までに申し上げます。よろしくお願ひします。

(都民委員) 今まで武蔵村山市からは私一人しか参加してなかったんですが、それには理由があるんです。武蔵村山市は新薬師橋という旧青梅街道へ抜ける橋があるんですけど、そこを基点として調整池ができて、川をまっすぐにしたんです。川を広くして。それで、旧河川というのはどうなっているかという、その周りをグニャグニャグニャと流れている。そこは、彼がさきほど言いましたように水は流れているんです。まっすぐなコンクリートの後ろに作った調整池には水は全然無いわけです。大雨が降らない限り何も流れないんです。そんな川を市民はゴミ捨て場として以外、全然意識しないんです。という事で、5期が始まる時に市民としての意見を言える立場の人を募集したときに誰も応募しなかったんです。ただ、友達に環境を考える市民の会というのをやっている人がいて、その人は柳瀬川の

こともやってたもんですから、ちょっと顔を出した時に空堀川は私がやれということで、市報で募集された段階で私が出ることになりました。河川行政というのはこんなものなのかなと思うんですが、空堀川というのは源泉の野山北公園のあたりは東京都の川ではないんです。一般河川なんです。しかしちょっと下がってきて横田トンネルってあるんですけど、そのそばに一級河川空堀川基点って書いてあるんです。そこからが東京都の川なんです。同じ川なのにどういわけなんだと私は不思議でしょうがないんですが、で、東京都の川になっている部分はゴミは捨てるわ自転車は捨てるわ、大変な扱いを受けているという事なんです。それで、去年ここに出ていてゴミゼロの日の話がありました。清瀬とか下流の方では上流がゴミをちゃんとしてくれないから敵わないというような声がありまして、市に持ち帰ったんです。それで環境を考える会の人と一緒にになってゴミゼロの日というのを市でも起こそうと。ちょうどそのころ市ではクリーン作戦とって、町の中のゴミ拾いをやっているんですけど、去年の5月30日に私たちのグループが空堀川も掃除しようという運動を起こしました。市のクリーン作戦と一緒にやろうと思ったんですけど、いきなりそんなことを言われても市としても動きがつかないというので、ささやかなんですけども、地元の自治会の老人会の人たちに空堀川の掃除をやりたいと持ちかけたら、手伝うよということで、20人ぐらいおじいちゃん、おばあちゃんが来てくれて、びっくりしたんですけども、その人たちが俺は何十年もここに住んでいるが空堀川の掃除なんてしたことなかったよ、なんて言っていて、初めて声をかけられたもんだから喜んで来て、自転車やらタイヤやら引っ張り出してきてくれましたですね。今年もそれはやろうということにして、連絡を取っているわけなんですけど。先ほどから言っているように水がない部分というのはゴミ捨て場になるんです。それで、まっすぐな河川になったらそれは、活かされるものだ、活かしていくべきだという風に思うんです。で、旧河川に流れている水をどうやって上手に調整池の中に流し、なお且つ、調節池の形を親しみやすい川の形に変えていくかということがこれからの問題だろうという風に思うんです。残堀川という川が武蔵村山にはもう一つ流れているんですが、その川がそういう点では割合、上手くいってるんです。三面貼りなんですけど水が真ん中にずっと流れるようになっていて、両脇が河川敷になって、大雨の時はそこも一緒に水を流すというような、上手い具合になっているんです。ただ、時々水が溜れるところについては同じなので、それは三面貼りにした時に川底を削っちゃったもんだから。狭山池という有名な池が瑞穂にあるんですけど、そこから出る水が村山に来るあたりでは全然なくなっちゃうという風な悲しい川なんですけど、川の形としては空堀川もあんな風にして、今、旧河川で流れている水を真ん中に流して、両脇に大雨が降ったときのための河川敷を作ればいいのか、どうしたらいいのかということは今、思っています。それから、大和が終わると村山が工事になるわけですから、徐々に大和の工事も完成しながら、一貫した親しみやすい川にしていこうと。旧河川がずっと蛇行して走ってるんです。その川と調整池の間に広い、公園にしたらいいなという土地が必然的にできちゃうわけなんです。川の環境になるというような土地がいっぱいあって、これはすごく楽しい町づくりができるぞという風な感じで見ているわけです。長い長い時間のかかることで、今日明日、一年二年で終わる問題じゃなさそうだなという風に思いますけども、ゴミを捨てたくなるような川にする。下流の人が困らないような川にするというのは、川そのものが生活に関わるものでなければ無理な話なので、そんなことで、もっていきたいなと思います。以上です。

(行政委員)武蔵村山市役所の行政を代表しまして環境課の〇〇が参加いたします。武蔵村山の特徴は鉄道が無いということもございまして、市民の皆様に関心はどちらかといいますと、環境よりは鉄道。モノレールを通して欲しいという方が、現場のお話を聞いてきまして、どうしても市民の方は早くモノレールを通して頂きたいという話がありまして、なかなか環境に関心を持っていただくことが非常に難しい市であります。そういった中で環境課といたしましては、生活環境でクリーン作戦とか親と子の環境教育とか学習会とかいうものを開いているんですが、参加者も40人とか20人程度とかしか集まらなかつたりしております。



ここで初めて〇〇様からお話を頂いたんですが、環境を考える市民の会のご発案で、空堀川に関しても何も実は環境課としては働きかけをしていなかったということもありまして、掃除をしたらどうだろうということで、6月5日のクリーン作戦で、環境を考える市民の会のご協力を頂きまして、自治会に声掛けをして空堀川の掃除をしようという形になりました。これを機に空堀川の掃除、村山についてはこれから工事があるということがございますが、いい川を作っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(行政委員) 東京都の北多摩北部建設事務所管理課長の〇〇と申します。普段、私の課は工事管理とか苦情対応などをやっていますが、こちらの流連は5期の途中から参加させて頂きました。かなりみなさん熱心で本当にレベルが高いという事で感銘を受けています。御成橋周辺の整備計画も頂いて、実施に向けた意気込み、熱意を感じます。私は北北建に来る前は区部の事務所におりまして、そこは主に区部の河川の公害対策とか、そういったものが議題でございまして、地元住民からは色々と強い意見があつて、私たちの管理する部門としては結構対応に苦慮していた所なんです、そういう意味では、地元の方々が利用されない河川は非常に管理が難しい。ビルの裏手とか宅地の裏手にある川、暗いイメージの川もあつたんですが、そういう所はとて管理が難しいという事を感じました。こちらの空堀川、柳瀬川を見せて頂いて、非常に周辺の方々の意識が高く、河川の管理をする側としてもありがたいかなと思ひます。本当にこの流連の場が流域全体で意見交換の場になっていく事を願っています。これから地域の方々から川に愛着を持って頂けるという事を河川を管理する者として願っています。行政委員の一人として、一言感想を述べさせて頂きました。

(座長) どうもありがとうございました。それでは、各委員からのお話を伺いましたけれども、次第9番目の進め方については伺いたいと思ひますけれども、ここで言う進め方というのはどういう形でやっていくのかというのを決めていきたいと思ひます。前回の5期については分科会を2つ作つて進めたということも踏まえて頂いて。

(都民委員) 流れからいうと問題点というか、これからやらなきゃいけないことについて挙げてありますが、説明を今回して頂いて分りましたので、次回からはこういう議題にどんどん入つて頂いて、具体的にひとつひとつこういう問題点をクリアにしていくという感じでいって欲しいなと。で、ひとつ感じたのは、多様性という問題。生物の多様性という観点が非常に重要になってくると思ひます。その辺をどう思われているのかということでも話が変わってくると思ひますので。もう一つは、空堀には水がないという問題もあるんですが、さっき言つた水のない川はゴミ捨て場になるという事にちょっと驚いているんですが、ゲリラ豪雨のたびに必ず調整池に大量のゴミが入ってくる。こういう状態なんです。毛布だとかビニールだとかありとあらゆるものが入ってくる。こういうのを改善するとなつたら大変なんです。そういう事で一年が暮れちゃうような状態です。やっぱりそういう所で、行政さんはたくさん現地でいろんな意見を聞かれているわけですから、当然いろんな形で吸い上げられるんだろうとは思ひますが、普段、そういう各地区でどういう事で市民とか組織の人たちが困っているのかを吸い上げて、現場を見て。例えば私どもで、どういうところで困っているのかということも発言してもなかなか動きが悪い。それは昔から市民協働なんて格好いい言葉で申しますが、実際には市民協働と言っても市民任せのところが多いわけですから。やっぱり行政の役割というのはできないことも色々ありますが、どういう事で市民が困っているのかということもいつも吸い上げて、そういう経緯がないと、市民協働という言葉だけではなかなかできないです。せつかくこれだけ行政の方、市民の方が大勢集まっているわけですから、こういう課題を是非、本年は入れて頂いて、もうちょっと、北北建管内は市民協働体というものをより強固なものにしていきたいという、皆さんの意見をきいて頂くとそういうものを感じましたので、是非よろしくお願ひします。

(座長) 他に、何か確認ということで。

(都民委員) 一応、前回からの宿題という事で御成橋とそれから河川環境。これだけ案が出ている

んですから、まずこの二つは続けてやらなければいけない。それから、さきほど出ましたように地区地区によって色々問題がある。その地域その地域の問題点を持ち寄って、そこで分科会で議題にしていくという。話が大きくなってしまうと訳が分からなくなってしまうので、そういう形にしてはいかがでしょうか。とりあえず二つの分科会は継続していくという事です。

- (座長) 二つの分科会は継続して、改めて必要なものがあれば作ったらどうかという事です。
- (団体委員) 今、おっしゃたような意見に私も賛成なんですが、全体で取り組むテーマとは別の地区地区の問題というのは全体で取り上げるのはちょっと難しいかなと思いますので、地区ごとのテーマは別に何か設けた方が相応しいのではないのでしょうか。ただ、どういう格好にしておかなければいけませんけど。分科会なら分科会。懇談会なら懇談会。きちっと立ち上げてもらわなければいけませんけど、そういう風にやっていただくか、あるいは、全体会のなかでそれも含めてやっていただければ、それはそれでいいとは思いますが、個人的には地域の問題を全体でやるのはちょっと難しい面もあるかなという気もしています。
- (都民委員) 今までは、年に2回しか集まらなかったの、なかなか進められなかったんです。来ても来ても、何も形になって現れない。それがやっと前期、河川整備計画をみんなで考えて、発表して、やっと植栽ができるようになりました。ゴミの問題もやっと片付けてくれました。でもこのごろはすごくゴミの種類が増えてきて、次々とうまれてくるので、やはり北北建さんをお願いしたいという事で、山のようなゴミを片付けてくれています。ですけれども、せっかくここまで御成橋、植栽、水の確保、流れてくる水を大事に川にとっておけるような、そういうシステム作りましょうというところまでやっこぎつけてきました。ぜひそれをきちんと進めさせて頂きたい。どれぐらいの時間がかかるか分かりません。ですけど、御成橋でもこうしようと言えたんですから、進めて頂きたいなと思います。
- (座長) それは具体的には分科会でやろうということですか。
- (都民委員) これだけの全体会議でみんなの意見を聞いているうちに、聞くだけで時間がなくなっちゃうんです。それを一歩、行動に移すために。
- (座長) そういうものを分科会方式でやろうと。
- (都民委員) それでいいと思います。
- (都民委員) とりあえず分けるテーマを持って次回にでも決めて、二つの整備計画とか、上流部とか。他にもいろいろあると思いますけど、それぐらいテーマを持ってやっていった方が、私は具体的にいいと思います。
- (座長) 他にご意見は。
- (副座長) すいません。副(座長)なんかやっていると役割が難しくなってしまうんですけど、今、新しい委員の方もおられるので、分科会をつくるって所までいったんで、御成橋を1度見て頂いて。これは、近いところの情勢を御成橋というかたちで見せて頂いて、そしてその中で、私はこっちの方に行くとかあっちの方に行くとか自分で決めるんだと。だからみんなで御成橋に行って、また意見もあるでしょうから、一緒に見てもらおう。そして、河川環境とか水循環とか、そういうところでやっていけたらいいなと、これは私の意見ですけど。
- (都民委員) 新規参入なので分からない事が色々あるんですが、分科会の前回までの活動は具体的にはどれぐらいの頻度で会議をやって、どれぐらいのチームでやっていたのか。
- (副座長) 私は水循環の方でやりましたが、全体会は2回か3回。分科会は河川環境と水循環とを分けてやってきたんですけど、こんなにたくさん人がいなかったんです。基本的には月に1回という、それぐらいの感じでやってきたと思います。
- (都民委員) 具体的なワーキングというか仕事という中で、例えば調査をするとか、そういうことも付随してくるんですか。
- (座長) それはそれぞれの分科会で、今回の分科会では何をやろうかというテーマをみなさんで決めていただいて、それで現場見た方がいい時は現場に行きましょうとか、あるいは議論をした方がいいんじゃないかとか。そういう事を分科会の時に決めていただいています。

ただ、前回は同じ場所の企画が集中してテーマとしてありましたんで、現場視察も同じ日にやったりして、分科会も別々の日にやったり合同でやったりと、そういう形を採りました。それは具体的には資料7の前の活動報告というところに書いてございますので。

(都民委員) 要するに各市から2人、行政委員さんが2人、それから武蔵村山市さんはまだ工事がすすんでないので委員さんがほとんど出ていらっしやらなかったんですが、そうするとほとんど3市ですね、あと、東大和も東村山も行政側は出てましたけど。そうすると、環境も5人ぐらい、水循環も5人ぐらい、そういうところで話し合ってたんです。今回、驚くほど大勢、来て下さって、今後は話が進むんじゃないかなというのと併せまして、本当に国交省が薦めているいい川というのは何なのか、そういうものを私たちが共通認識として学べるように、前回の一番最後にできましたら河川の専門家に一度、みんなでお話を伺わせて頂きたいというお願いをいたしましたんですけども。

(副座長) 運営要綱の中に臨時委員があるんですが。

(座長) そういう機会を作るかどうかは、これから議論をしていけばいいと思うんですけども。

(都民委員) 提案ですから。

(座長) そういう意味で、全体の進め方をどうするかって部分に議論を絞りたいんですけど。他にご意見はございませんか

(都民委員) 基本的にみなさんと同じなんですけど、共通の問題としては今、みなさんおっしゃってるような水循環と言うか水の問題と環境的な自然環境の話の二つ。それが共通した問題としてあると。それ以外に地区地区であるのが、今、御成橋の話と合流地点、あとは芝中ですね、これからやる。非常に大きな調節池で、これは何なのって最初見たときびっくりしたんですけど、息子に連れて行かれて、この造りは無いだろうって思ったんです。これから工事をやるわけですから、やはりそれは市民のみんなが使えるようなものを是非、造っていききたいなど。

(座長) 他にご意見ありますでしょうか。そうしましたら今までの水循環分科会と河川環境分科会という分科会二つはまずセットして、その中で何を議論するかもまずはその分科会で決めていくと。それで、その他に地域或いはテーマごとの分科会もまたこれからつくっていく、そういう事でもよろしいですか。まあ、今日はそれぐらいまでのイメージで決めさせて頂いて、それで今、現場を見た方がいいんじゃないかという話もあるんですけど、現場を見るとすると全体を見るという事にするのか、御成橋を集中的に見ようという事にするのかという話になるんですけど、その辺は何かご意見ありますか。

(団体委員) 結局、新しい方もおられるので、現地見なきゃしょうがないなど。時間もありますが、これは一般にやる事で、やらざるを得ないかなと。そういう意味では下流の合流点の所、御成橋、それから東大和地区は高木橋から芝中調整池まで。それと武蔵村山の現状。大きく四つぐらいにわけて、みんな一度に見るか、四箇所を別の日にやるかですね。そんなところでスタートの部分は時間をかけないといけないかなと思います。月一回は最低やっていく必要があるかな。

(都民委員) 全体で見る所とあとは各ブロックごとでということでもいいんじゃないでしょうか。

(事務局) 現場を一回見たいというご要望があれば、これは昨年もそうなんですけれども、一日かけて、昨年は二つに分けたんですけど、回りきれなかったという事もありますので、こちらの方で20人乗りのバスがありますので、それに乗って頂いて、合流点の所、それから御成橋、最上流の武蔵村山の源流。それぐらいのところであればお昼をはさみますけれども、バスでご案内できると思うんです。先ほどの分科会でどのテーマを取り上げるかという事は、新しく見えられた委員の方は多分まだ、何も現状見ておられないので分からないと思うんで、事務局としては一回みなさんを現場にご案内したいと、そう思ってるんですけども、で、それを見て頂いて、もし時間が空けば最寄の市の会議室を借りてちょっとお話をさせていただいて、分科会でどんなものを取り上げるか決めて頂ければいいと思うんです。いずれにしても二年間ありますんで、早急に分科会で検討するもの、それから次の後半の一年で検討するもの、そういうものを分けて頂ければと思うんで、事務局としては次回

は現場という事で考えていた次第ですけども。

(座長) 事務局から次回は現場に行くので、現場はみなさんのお話を伺った中での予定を考えてという事で、その現場を見た後に検討するテーマ、あるいは分科会の活動、それを議論していただいて決めていくと、そういうことでよろしいですか。

異議なし

(座長) では、そういうことで、とりあえず現場は6月下旬ごろ。

(事務局) そうですね。早い方がいいと思いますので、うちの方で予定を組ませて頂きます。一日かけて回る事になりますので、お弁当を持ってきて頂いて、晴れていれば広場かどこかで食べて頂いて、行程的に時間があれば会議室借りて頂いて、現場調査の結果分科会等話して頂くと。

(座長) じゃあ、そういうことで。次回は現場視察ということで、みなさんご連絡申し上げます。是非ご参加頂きたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(事務局) 今回の全体会は終わりなんですけど、事務局の方から2、3。〇〇さんの方から清掃の資料が出ていますので、それとあと〇〇さんの方から環境フェアということで出ておりますのでこれについて簡単に説明して頂きたいと思います。

(団体委員) では、私の方から。まずは結果報告で第12回の空堀川クリーンアップ写真報告。4月の24日に東村山市と一緒にやったもののうち東大和の部分です。参加者48名。収集したゴミは全部で350kgという事で、それぞれ写真もありますので、こういう事でしたというご報告。その裏は次の第13回になりますけども7月の23日の夏の清掃活動という事のご案内です。このチラシの一番上の右にありますように、この流域連絡会のクリーンキャンペーンという形ですので、ここにご報告をさせて頂きました。

(事務局) 〇〇さんお帰りになったので環境フェアについては各自ご覧になって下さい。それから流連からお願いがあります、先ほどからJR湧水の話が出たと思うんですけどもその水質の結果がでたという話があるんですけども、簡単にお話し頂けますか。

(行政委員) 東村山の〇〇でございます。御成橋のJR関係ですけども湧水があるということで、JRの関係者が来られまして、4月の下旬に地下水を検査したところ、基準値というのがありますけれども、その基準値を超えることなく、以内であったと、一応問題ないとJRの方からご報告を頂きました。以上、ご報告いたします。

(事務局) この湧水につきましても詳細が分かればご案内できるかと思います。今日は簡単にご報告という形にしておきます。それでは、時間も一時間もオーバーしてしまって、申し訳なかったんですけども、本日の第1回の全体会、これで閉会とさせて頂きたいと思います。どうもありがとうございました。

柳瀬川・空堀川流域連絡会（第6期）(全体会)

平成23年5月13日(金) 14時00分～16時00分

【開催状況】

